

令和元年度「学校評価」まとめ（3月）

◆プラス1を意識して行動できる子

内 容	目標数値	31年3月	5月	7月	10月	12月	3月
児童 プラス1を意識して行動できた。	100%	97%	94.7	92.1	97.4	100	100
保護者 お子さんは、プラス1を意識して行動できた。				92.1		89.5	
教職員 児童は、プラス1を意識して行動できた。				85		100	100
児童 家でも学校でも、気持ちのよいあいさつができた。	90%	97%	100	100	97.4	97.4	100
保護者 お子さんは、家でも気持ちのよいあいさつができた。				94.6		86.8	
教職員 児童は、学校で気持ちのよいあいさつができた。				87		100	100
児童 「ありがとう」「ごめんなさい」が自然に言えた。	95%	100%	97.4	94.7	97.4	97.4	100
保護者 お子さんは、「ありがとう」「ごめんなさい」が自然に言えた。				81.6		76.3	
教職員 児童は、「ありがとう」「ごめんなさい」が自然に言えた。				82		83	100

【成果と課題および次年度に向けて】

1年間を通じて「あいさつと言葉遣いを核としたプラス1（プラス1=自分で考え、よいと思ったことを実行）」に取り組み、その成果が子供たちの姿として表れたといえる。

次年度も、あいさつや言葉遣いについては、学校・家庭・地域が連携した取組を行うことで、子供たちが意識を高く持ち続けられるようにしていきたい。また、今後も「プラス1」を合言葉として、自分でよく考え、よりよく行動ができる子を育成したい。

◆関わり合いながら学ぶ子

内 容	目標数値	31年3月	5月	7月	10月	12月	3月
児童 自分の考えをもち、友達と関わり合いながら学べた。	90%		94.7	92.1	97.4	92.1	94.7
保護者 お子さんは、自分の考えをもち、友達と関わり合いながら学べた。				94.7		97.4	
教職員 児童は自分の考えをもち、友達と関わり合いながら学べた				71		83	100
児童 家庭学習にプラス1できた。	90%	86%	92.1	94.7	89.5	92.1	94.7
保護者 お子さんは、家庭学習にプラス1できた。				89.5		84.2	
教職員 児童は、家庭学習にプラス1できた。				50		33	66
児童 年間目標読書冊数を達成することができた。	80%	63%	65.8	71.1	65.8	86.8	89.5
保護者 お子さんは進んで読書ができた。				70.3		55.3	
教職員 児童は年間目標読書冊数を達成することができた。				50		75	100

【成果と課題および次年度に向けて】

「対話の必然性がある課題設定や場の工夫」「対話を深めるための話す力を高める指導」等の手立てにより、「自分の考えをもち、友達と関わり合いながら学べた」について、児童、教師の評価がともに目標を上回る結果となった。

読書に係る項目については、目標読書量の達成状況を学年だよりで家庭に知らせたり、自主学習の一つとして読書を取り入れたりする等、家庭における読書も推奨したことにより、読書量が増えた。次年度はさらに、読書に親しむ機会をつくる様々な工夫を考えるとともに、思考力の源となる読書活動の推進に努めたい。

◆心も体もたくましい子

内 容	目標数値	31年3月	5月	7月	10月	12月	3月
児童 運動のめあてに向かってプラス1の努力ができた。 保護者 お子さんは、めあてに向かってプラス1の努力ができた。 教職員 児童は運動のめあてに向かってプラス1の努力ができた	95%	94%	100	94.7 73.7 82	92.1	94.7 81.6 80	94.7 100
児童 起きたり寝たりする時刻を守ることができた。 保護者 お子さんは、起床就寝時刻を守ることができた。 教職員 児童は、起床就寝時刻を守ることができた。	90%	94%	97.4	89.5 86.8 100	84.2	92.1 65.8 100	92.1 80
児童 家でも学校でも何でも食べようと努力できた。 保護者 お子さんは家でも学校でも何でも食べようと努力できた 教職員 児童は（家でも）学校でも何でも食べようと努力できた	95%		97.4	97.4 89.5 100	100	97.4 84.2 100	97.4 100

【成果と課題および次年度に向けて】

昨年度と同様に、2学期には、逆上がり・後方支持回転等、鉄棒の技能を高めるための挑戦を全校で同時期に行ったり、持久走大会に向けた個々の練習への取組状況が分かる掲示を工夫したりした。担当を中心に全職員で取り組んだことにより、児童および教職員の評価の向上につながった。

食事に関する項目については、日頃行っている給食指導の他、家庭との連携を図った指導を次年度も継続し、「なんでも食べようと努力すること」を目指したい。

◆その他（森町共通評価項目）

内 容	31年3月	5月	7月	10月	12月	3月
児童 授業の内容がよくわかる。	97%	92.1	94.7	97.4	100	100
児童 進んで先生に聞いたり、自分で調べたりして学習している。	100%	89.5	89.5	86.8	86.8	100
児童 学校に相談できる人がいる。	97%	92.1	97.4	97.4	94.7	100
児童 私たちの学級（学校）は、互いにルールを守り、協力する雰囲気がある	97%	100	100	100	94.7	100
児童 学校が楽しい。	97%	100	100	100	97.4	100
保護者 先生は子どものことを理解して指導にあたっている。	96%		91.7		95.8	
保護者 学校で目指そうとしている子どもの姿や教育内容について知っている。	96%		95.8		95.8	

【成果と課題および次年度に向けて】

職員が児童理解やきめ細やかな指導に努めることを通して信頼関係を築くことができるよう努力を続けることで、「学校に相談できる人がいる」の評価が向上している。今後も、子供たちの信頼に応えられるよう努力を続けていく。

◆学校評議員からの御意見◆

- 児童の様子について
 - ・高学年になるにつれ、リーダー性が育ちしっかりしてくるのは、天方小の伝統である。
 - ・放課後子供教室でも、学年の隔てなく、仲良く過ごすことができている。宿題の時間を自分で決めて取り組ませるようになってから、より自主的に行う姿組が見られるようになってきた。
- 来年度の教育活動について
 - ・育てたい力（迫及する力、自分の考えを伝える力、しなやかさやたくましさ、自ら考え行動する力）は、社会人でも通用する必要な力である。特に、仲間づくりを大切に、人とのかかわり合いを学んでいけるとよい。